

## 一人ひとりの豊かな成長を願って ～奥中山学園の紹介～



2012. 3. 7  
小規模ケア化、地域分散化  
障害者総合福祉推進事業報告会  
奥中山学園 佐藤真名

四国4県分の広さがあると言われる岩手県の東北に位置。盛岡から北に約50km、東日本の大動脈である国道4号線沿いの標高約450mの高原地帯にあります。冬は-20℃前後にもなる厳しい気候条件で、高原野菜と酪農、それに福祉が地域の主要産業です。



## 奥中山学園について

- ・運営主体：社会福祉法人カナンの園
- ・一戸町奥中山に1973年開設（39年目）
- ・入所定員：40名 現員38名
  - ・児童ディサービス 定員10名
  - ・併設型短期入所 定員10名+空床型短期入所 } 契約者数 40名(3/1現在)
  - ・日中一時支援：定員10名
- ・2006年12月全面建替え
  - ⇒小舎5棟+敷地内自活訓練棟1棟の計6棟に分散して少人数（5～7名）での生活
  - (他に敷地外自活訓練棟あり：今年度は使用せず)
- ・三愛学舎（特別支援学校高等部）との綿密な連携を中心とした思春期青年期の子ども達への支援を積極的に行う。

## カナンの園について

- ・カナンの園は理念を同じくする「社会福祉法人カナンの園」と「学校法人カナン学園」の総称。
- ・1972年社会福祉法人設立
- ・1973年知的障害児施設奥中山学園開設
- ・1978年学校法人カナン学園三愛学舎養護学校(高等部)開校
- ・現在両法人合わせて利用者数は約450名、職員数は約210名。
- ・児童施設では小舎での運営、成人についても少人数で地域での生活を実現する為に、入所更生施設(定員40名)を閉鎖し、ケアホーム6棟(6人×6棟)に移行した他、日中活動もA型、B型、生活介護などを実施している。
- ・生活、労働(日中活動)共に、小規模、多機能、地域点をなどを目指して事業展開を進めてきている。

## カナンの園の基本理念

### ◎ ねがい

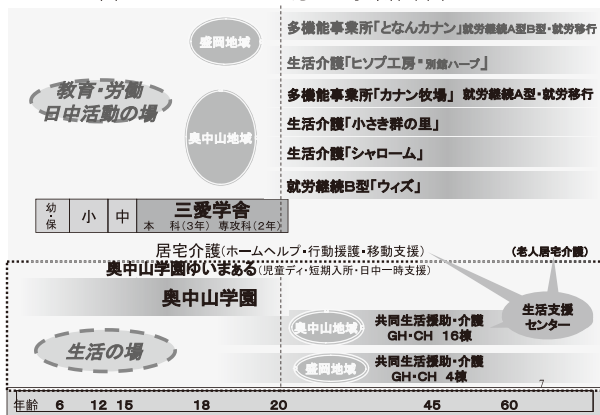
「私たちは、神につくられた大切な一人一人として生かされています」

カナンの園はキリストの愛のもとに、障害者といわれている人々を中心として、全ての人が互いに尊重しつつ助け合って生きていく社会の実現をめざします。

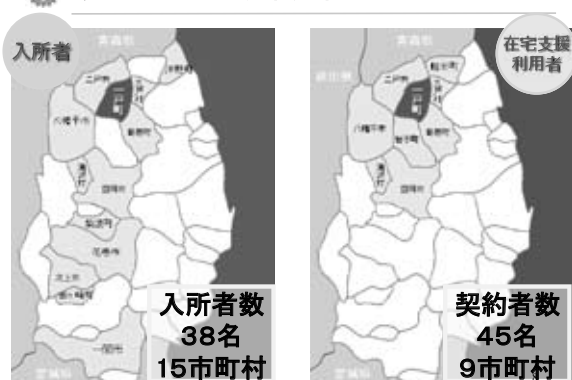
## ◎ カナンの園の三本の柱

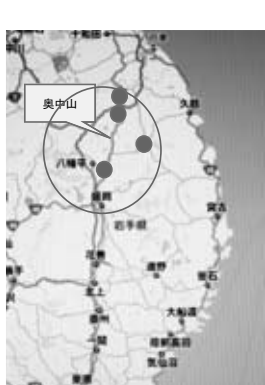
- 1 神に感謝しつつ歩む。
- 2 共に学び、共に育つ。  
施設にあった人をつくるのではなく、その人の成長の必要に応じた環境をつくる。
- 3 連帯の輪を拡げる。  
施設づくりは枠づくりではなく、連帯し共に育ち合う家庭・地域・社会づくり。

## カナンの園 ライフステージに応じた事業体系図

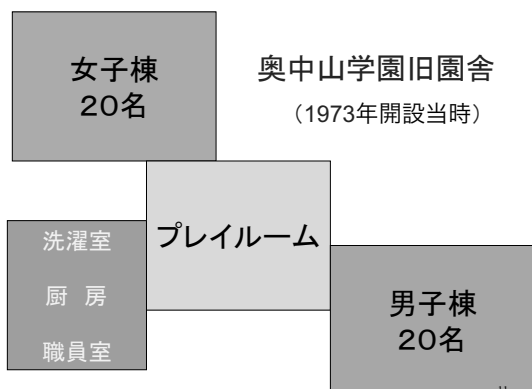


## 奥中山学園の利用者分布

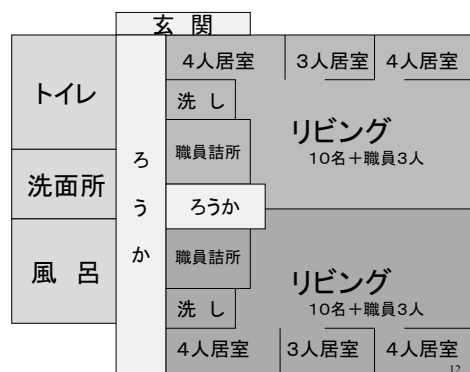




1973年4月  
児童施設「奥中山学園」開園



奥中山学園旧園舎 1973(S48)年開設



### 奥中山学園の運営形態などの変遷

1973年開設 男子寮10名×2寮、女子寮10名×2寮  
 ⇒男女混合寮10×4寮  
 ⇒小学生寮1寮、中学生寮1寮、縦割り寮2寮(1987年)  
 ⇒中高生寮を2分する形で小舎開始(1991年)  
 他の寮でも連続ドーナツ勤務試行開始  
 ⇒小舎2棟目開始(1996年) 6寮体制に  
 ⇒2000年頃より建替え準備開始  
 ⇒2002年年金喪失事件により中断  
 ⇒2005年耐震化助成により建替え準備  
 ⇒2006年4月建替え工事による分散生活開始  
 ⇒同年12月新園舎完成  
 小舎5棟+敷地外自活訓練棟1棟に

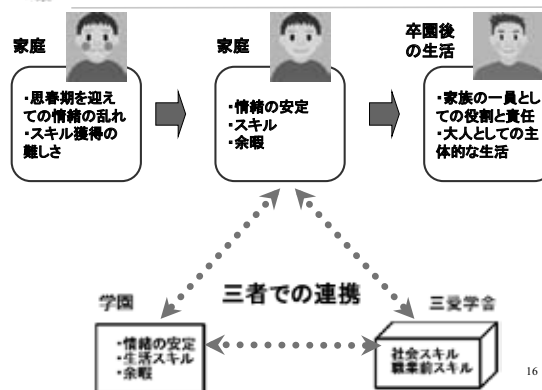
### 奥中山学園の大切にしてきたこと

- ・暮らしの単位は出来る限り少人数で
- ・人間関係の中で成長できる暮らしを
- ・よりどころとなる大人の存在を限定的に
- ・(施設としては)「家庭的」に満足するのではなく、子ども達の暮らしの場として検証する
- ・「24時間」を「8時間」に合わせ効率より、「8時間」を「24時間」に合わせる姿勢を
- ・暮らしの実体験から学び、成長する環境を
- ・学園でしか通用しないことは無用という意識を

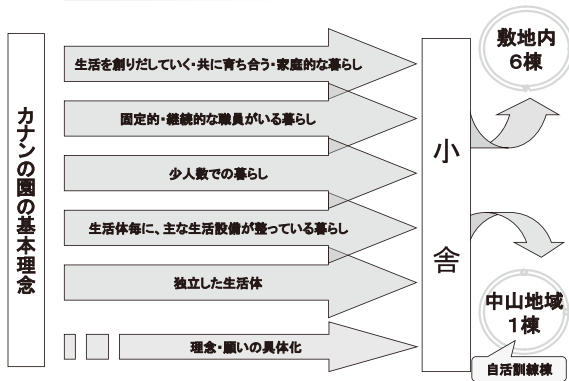
### 寮の暮らしの中で大切にしていること

- (1) 感謝と祈りのある暮らし。
- (2) 一人ひとりが大切にされ、受け入れられていると実感できる暮らし。
- (3) 一人ひとりが生活の主役であること。  
(役割にこだわらず必要に応じて助け合える仲間関係)
- (4) 一人ひとりが自分を表現できること。
- (5) 仲間とのつながりを大切にし、お互いを思いやれること
- (6) 社会とのつながりを大切にすること。  
(余暇、交通機関、公共機関、買い物など)

### 青年期の利用者への発達支援モデル



奥中山学園における『小舎』とは



小舎の構造

- 雑多な刺激(音など)が調整しやすい。
- 自分だけの安心できる空間が、確保されている。
- 場所の役割が明確になっている。
- 一人ひとりの生活動線が、明確になっている。(生活の流れが大体、決まっている。)

18

人間関係の数について

- 複数人数の関係の数は、その集団の人数に比例して多くなる
- $n \times (n-1) / 2$  で何通りの人間関係が生じるかが計算できる
- 3人の場合;  $3 \times 2 \div 2 = 3$  通り
- 5人の場合;  $5 \times 4 \div 2 = 10$  通り
- 9人の場合;  $9 \times 8 \div 2 = 36$  通り
- 60人の場合;  $60 \times 59 \div 2 = 1770$  通り

19

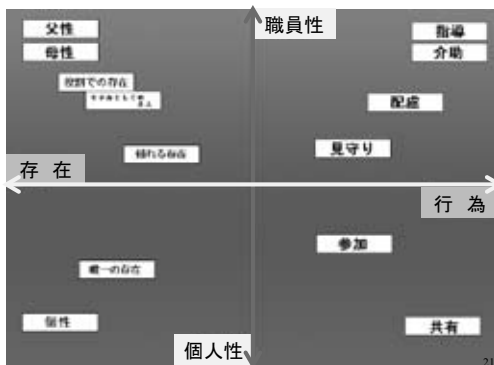
奥中山学園の寮の基本的な勤務パターン

		日	月	火	水	木	金	土
6:00~9:00	起床~登校		職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	
9:00~10:00	職員礼拝・打合せ	休	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	
10:00~12:00	会議・通院など					職員A 職員B	休	
13:00~16:00	金:帰宅付添い 日:帰園付添い	職員B	休	休	休	休	職員A	休
16:00~21:00	下校~ 夕食・入浴など	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B		休
21:00~22:00	就寝準備・記録など	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A 職員B	職員A		
22:00 ~翌朝6:00	看護(仮眠)	職員A 職員B	職員B 職員C	職員A 職員D	職員A			



20

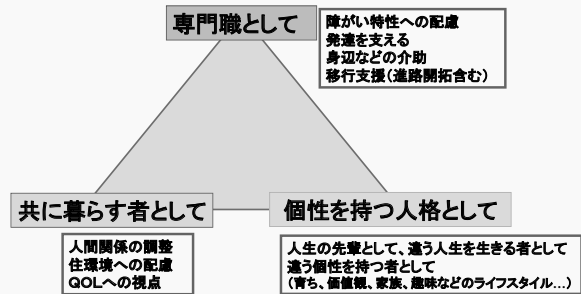
職員と子どもの関係性



21

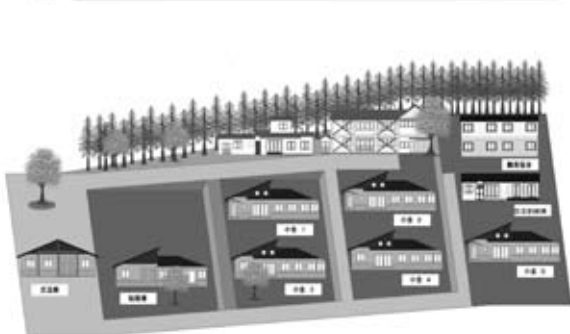
職員の役割

~どのような立場で彼らの前に立つか~



22

奥中山学園の配置図

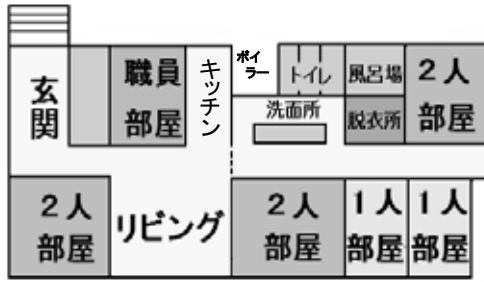


23

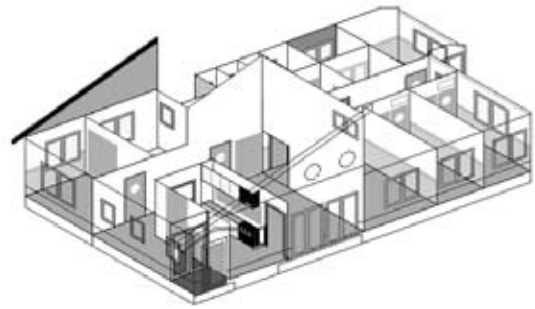
奥中山学園風景



❁ 小舎の構造(定員8名:5~7名で利用)



25



26

❁ リビング 居室



❁ キッチン 玄関



❁ 浴室 トイレ



29



30



31



32









2. ユニットの構成メンバー

【ユニット①】(名称: A棟(のぞみ)-1) 延べ床面積 145.72㎡  
居室数 6室(個室)、1居室面積 8.79㎡、児童定員 6名(現員 5名)

- ① 男(過齡児) ② 男(過齡児) ③ 男(過齡児)
- ④ 女(過齡児) ⑤ 女(過齡児)

【ユニット②】(名称: A棟(のぞみ)-2) 延べ床面積 163.73㎡  
居室数 6室(個室)、1居室面積 8.79㎡、児童定員 6名(現員 4名)

- ① 男(特別支援学校中3) ② 男(特別支援学校高2) ③ 男(特別支援学校高3)
- ④ 男(過齡児)

【ユニット③】(名称: B棟(そだち)-1) 延べ床面積 155.93㎡  
居室数 6室(個室)、1居室面積 8.79㎡、児童定員 6名(現員 6名)

- ① 男(特別支援学校小3) ② 男(特別支援学校小5) ③ 男(特別支援学校小6)
- ④ 男(特別支援学校高1) ⑤ 男(特別支援学校高1) ⑥ 男(特別支援学校高2)

【ユニット④】(名称: B棟(そだち)-2) 延べ床面積 163.91㎡  
居室数 6室(個室)、1居室面積 8.79㎡、児童定員 6名(現員 5名)

- ① 男(5歳 児童通園施設) ② 男(特別支援学校小4) ③ 女(特別支援学校小2)
- ④ 女(特別支援学校高1) ⑤ 女(特別支援学校高2)



ユニット構成における特徴

1. 女子と中高生男子とを別ユニットで構成している。
2. 年長者と年少者が自立に向けて互いに刺激あい、年齢の異なることに対する関わり方を日常生活の中で学べるように、年齢幅のある構成としている。
3. 自傷、他害行為のある子どもと年少児を分ける。
4. 過剰児だけのユニットを作るなどしている。

ユニット構成を決定していくプロセスは、職員会議で、子どもたちのニーズや生活の様子から判断して決める。また、子どもたち同志の相性の善し悪しにも配慮している。

2011年度 三方原スクエア 児童部 勤務時間		2011. 4. 1 現在																
		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
学校普通日課	勤務																	
	R1																	
	R2																	
	R3																	
	日勤																	
過剰児	N勤																	
	R4																	
	日勤																	
夜勤																		
宿直																		

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(学校休校日)	早																	
	R勤																	
	A勤																	
	E勤																	
	遅																	
	D勤																	
	Free																	
過剰児	早																	
	遅																	
夜勤																		
宿直																		

勤務を組む上での基本的な考え方

1. 学校のある日は、基本的に断続勤務となる。但し、学童児の帰宅時間が異なることや、就学前の児童の通園施設への送迎、過剰児の日中活動支援のために、日中勤務職員を配置している。
2. 学校のない日は、帰宅する児童もいるが、それ以上に短期入所や在宅児童が入ってくるために、日中に7～8人の職員配置が必要になるので、平日より職員を増やさなければならない。
3. 女子のユニットには女子職員が、高等部男子で行動の激しい児童のユニットには男子職員ができるだけ入るように考えている。一方で、新人職員は独り立ちできるまで、時間をかけて養成しなければならない。

以上のような支援体制を確保するために、夜勤も含め1日に8～9人の勤務者が必要となり、児童定員20名に対して12人(1.7:1)の児童指導員を配置しなければならない。

C. 生活支援の状況

1. 日課の組み方の特徴

平日の日課は、未就学児は児童通園施設への通園(10:00～14:30)、就学児は地域の特別支援学校への通学(7:30～16:00)、過剰児は成人部日中活動への参加(9:30～16:30)している。

2. 食事提供方法

当初各ユニットで食事を作ることを計画したが、保健所の指導で、管理棟調理室にて調理された食事を各ユニットに運ぶことになった。ご飯はジャーで、味噌汁は鍋にいれ、5～6人分の食事を小さなワゴンに乗せて運び、ユニットのリビングで職員が配膳する。調理部門の業者委託せずに、調理員は自前の職員で行い、栄養士は成人部所属となっている。

5. 権利擁護

子どものプライバシーを保障でき、子どもからの訴えや要望をとらえやすくなっている。ユニットで一人勤務になる場合があり、子どもに強制的な支援を行ってしまう可能性があるため、適正な支援の在り方に関する職員研修が必要となる。支援現場で行われている実態を管理者が適切な把握していなければならない。

6. 職員間の連携、打ち合わせ、会議など

日常の勤務の中での職員間のコミュニケーションの強化が必要になった。勤務交代時の引き継ぎを確実に行うことや職員一人一人の資質・経験の違いによる養育の差が生じないよう、会議の回数を増やしお互いに話し合うことが重要になった。また、PHSを職員が持参し、緊急時の対応として協力ができる工夫をしている。

3. ハウスキーピングの方法

ユニットの清掃は、子どもたちが学校へ出かけた後に職員が行う。衣類は、基本的にユニットの洗濯機で洗濯し、天気の良い日は庭の物干し場に干す。

タオルや雑巾、便で汚れた衣類等は中央洗濯室にて大型洗濯機・乾燥機を使用して洗濯し、洗濯物の整理はボランティアが登って仕分けをしてくれる。

4. 防災

総合訓練のほか各ユニットごとに訓練を行っている。火災の時にとらえず5～6人を避難誘導すればよいので、勤務している他のユニットの職員の協力が得られる。利用者の把握もやりやすく、建物が離れているので火災被害の延焼を防ぎやすい。

D. 小規模化による変化や課題について

1. 小規模化を行った経過

改築前も2階建ての建物であったので、1階のプレールームや2階の職員室をそれぞれの食堂に改築し、廊下を隔てた両側の居室をつぶして、リビングのようにソファやテーブルを置き、くつろげる空間を作り出し、倉庫を改築して、個室を確保するなどの工夫をしながら、1階と2階でそれぞれ15人ずつの生活単位を提供し、職員がそれぞれ2～3人配置する支援体制を行ってきた。

全面改築にあたり、支援の在り方を職員会議で時間をかけて協議し、ユニットの人数を5～6人にすることに決定した。

## 2. 小規模化による変化

### ア) 入所児(者)の変化

職員による子どもへの個別的なかかわりが増え、子どもが日常にお手伝いをする機会が増えたり、子ども同士の中に、思いやる気持ちが自然に芽生えてきた。また、子どもの生活環境においてはプライバシーの向上が図られ、安定した生活環境を提供することができるようになった。

### イ) 職員の変化

職員間の情報交換・コミュニケーションのために、連絡・報告を密にする必要が生じた。

また、職員一人一人の資質・経験の違いによる養育の差が生じないよう、会議などで話し合う機会が増えた。

支援体制を確保するために、職員の人数を増やさなければならなくなった。

### オ) 職員研修で力を入れていること

- ・ 人権と接遇に関する研修
- ・ 施設内虐待(職員による虐待)についての研修
- ・ 身体拘束に関する研修
- ・ 利用者理解に関する研修
- ・ 自己評価の結果の周知と今後の課題の確認。

### ウ) 管理・運営面の変化

職員が一人で子どもを養育する時間が長くなったので、職員の養育能力、資質の向上を図るために職員研修で基本的な支援の在り方や虐待について、取り上げるようになった。

一方で、職員会議を月2回に増やし、子どもたちの状況の共有や支援の在り方についての情報交換を密にするようになった。

投棄のミス(事故)をなくすために、マニュアルを作成し、事故防止を徹底する必要が生じた。

また、職員それぞれがPHSを持って勤務し、互いにすぐに連絡がとれる体制を作った。

### エ) 経営面の変化

職員の加配による人件費が増額した。

子どもたちの状況だけでなく、職員の働く意欲やメンタル的な問題を考慮した支援体制を検討しなければならなくなった。

5～6人のユニットが児童入所施設のあり方として適切なのかどうかを、再度検討して行かなければならない。

### カ) その他

#### 家族との連携

- ・ 家族の会との協力が大切になった。
- ・ 保護者が帰宅、帰園時に事務所に立ち寄らずに直接ユニットへ行くために、事務的な連絡のある場合はあらかじめユニットの職員に事務所へ立ち寄るように伝えておく必要がある。
- ・ 職員と保護者が必要以上になれない関係になってしまう可能性がある。

#### 地域とのつながり

- ・ 小規模にしたことで、敷地内に家ができたことで、外見が今までの大規模施設と違うことで、地域住民が何ができただのかという関心を持ってくれた。
- ・ 施設の敷地内でのユニットのために、特に施設全体としての地域とのつながり以外に、ユニットとして特出した地域との関係はない。

#### 関係機関との連携

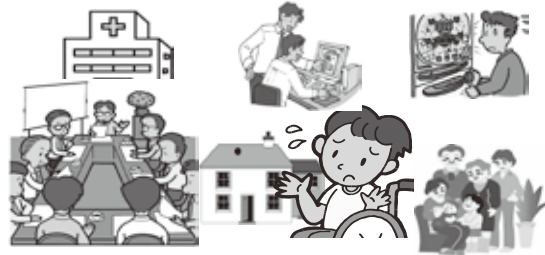
- ・ 短期入所等在宅児童の障害の特性に合わせたユニットでの対応が可能となったため、受け入れやすく利用者からの評判もよい。
- ・ 緊急一時保護といった緊急性のある場合にも対応しやすくなった。

# 「障害児入所施設における小規模 ケア化、地域分散化を推進する上 での課題等に関する調査」

上智大学総合人間科学部  
社会福祉学科 大塚晃

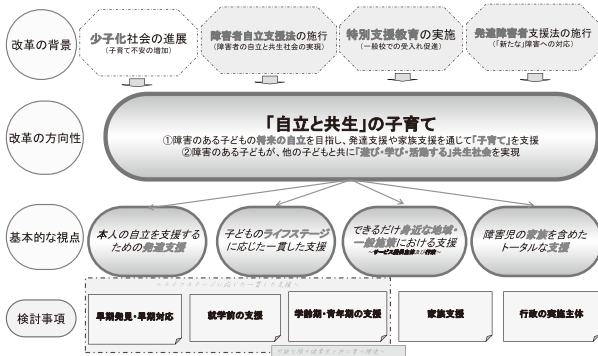
1

## 障害者自立支援法の支援 (地域生活支援モデル)



2

### 障害児支援施策の見直しの考え方



### 支援の考え方 33:33:33



### 利用者中心の考え方

サービス提供の基本は、  
いくつかあるが、

サービス管理責任者の役割  
「利用者中心」の考え方  
の徹底



5

### パーソンセンタードプランニング (S, ホルバーン)

- ・コミュニティに居ること
- ・コミュニティにおける諸関係
- ・選択、自律
- ・価値ある役割

6

### パーソンセンタードプランニング (S, ホルバーン)

システム・センター  
ド・アプローチ

- ・システムを重要視
- ・平等主義
- ・専門家主義
- ・専門用語の使用

パーソン・センター  
ド・アプローチ

- ・本人を重要視
- ・個人主義
- ・本人主義
- ・本人の言葉を聞き取る

7

### ここから希望の将来に向かって！

1. これ以降についての計画ですか？

2. あなたのチームには誰が参加していますか？誰があなたを助けていますか？あなたの友人は誰ですか？必要な時、あなたは誰に助けを求めますか？

3. あなたのどんなところが素晴らしいですか？

8

## 精神薄弱児施設のあり方に関する 研究報告書

(平成10年5月 福祉協会)

- 1 小規模化
- 2 地域密着化
- 3 多機能化
- 4 ネットワーク化
- 5 個性化

9

## 小規模化の意味

- ・ 住居(建築物)のこと
- ・ 生活単位のこと
- ・ 支援(ケア)のこと

最小制約環境と地域と個別支援  
家庭的ということ(情緒的関係の形成?)

10

